

① 事業が成果をあげるに、一つひとつの仕事は事業全体の成功に焦点を合わせなければならないか？ ⇒YES.一つひとつの仕事が事業全体の目標に向けなければならない。	Y・N
② 組織に働く者は、組織の目標が自らに求めているものを知り、理解しなければならないか？⇒YES。そして、その上司もまた、彼らに求め期待すべき貢献を知らなければならない。そして彼らに評価しなければならない。これらのことが行われなければ、働く者は方向づけを誤る。働きは無駄となる。	Y・N
③ 人は自らの仕事について情報をもつとき、初めてその成果について全責任を負うことができるか？ ⇒YES,情報を持ったうえで、自らの行動は自ら管理しなければならない。	Y・N
④ 一人ひとりの目標は、長期と短期の観点から明らかにし、組織の定量化できる目標とともに、定量化できないマネジャーのマネジメント、働く人たちの仕事ぶりや姿勢、社会的責任などの目標を含むことが必要か？⇒YES,定量化できる目標とともに、定量化できない目標を含むことが必要である。	Y・N
⑤ 組織全体(属する上位部門)の目標設定に対し、責任もって積極的に参画するようになっているか？⇒YES,この目標について徹底的に考えなければならない。	Y・N
・ 企業への貢献ではなく、専門的なスキルを基準として評価し昇進させてよいか？⇒NO。組織を分解させる。	Y・N
・ 働く者の意識を仕事に要求するものではなく、それぞれの上司に向けさせてよいか？⇒NO	Y・N
・ 社員の評価の基準は、顧客への貢献におくべきか？⇒YES,そして、自らの仕事を管理するために、その成果を目標に照らして測定すべき。	Y・N
・ 自己評価をするために必要となる明確な情報は提供され、必要な措置がとれるよう、その情報は早く提供されるべきか？⇒YES	Y・N

①一年前に設定した目標と、今年の成果を比較して「何がよくできたか？成果をあげたものは何か？何度もよくできたものは何か？」	⑤経営理念を実現するために、あなたは会社から何を期待されていると思うか？ 経営理念を実現するために、会社はあなたに何を期待してよいか？
	⑥会社と上司が行っていることのうち、助けになっていることは何か？ 上司の何気ない言葉によって部下を混乱させてないか？上司の要求に矛盾はないか？
②以上から、優れた成果をあげることができるあなたの強みは何か？	
	⑦会社と上司が行っていることのうち、妨げになっていることは何か？ ○やるべきことで、行われてないことは何か？○やるべきでないことで、行われていることは何か？
③あなたの強みや長所を最大限に発揮するために、克服すべきことは何か？	
	⑧あなたの目標を達成する上で、他の社員(部門)から期待できる貢献は何か？
④あなたの知識や能力を伸ばし活用するには、あなたにはどのような経験が必要か？	
	⑨他の社員(部門)の目標達成を助けるために、あなたに貢献できることは何か？